

## 何が見えるか、 何を見ているのか



2013年度 JOMA 会長  
アンテオケ宣教会主事  
松崎ひかり

4月22日の総会で承認された役員交代により、今年度の会長を拝命しました。役員として2期2年目ですから、任期は今年度のみですが、JOMAが進むべき方向に一步でも前進すればと願っています。何年も専任の主事が空席のまま、加盟団体代表者が輪番でなる4人の役員によって実務が行われてきましたが、この体制では、継続性を持ちつつ発展性のある働きを展開してゆくのは大変困難です。世界宣教を共通項としてはいても、それへのビジョンや関わり方の異なる団体が協働してゆくため、そしてJOMAが世界宣教に関する国内の窓口としてだけでなく、世界の宣教関係諸団体との窓口として機能するためには、この働きに対するビジョンと情熱を持って継続的に実務を担う主事が必要です。そのための人材と支援体制が与えられるように、世界宣教の使命と重荷を共有して下さる方々、特に加盟団体の皆様、篤いお祈りと人材発掘へのご協力をお願いいたします。

さて、JOMAの設立から20年程は、社会全体が右肩上がり、その波に乗って日本の教会からも宣教師が次々と派遣されてゆきました。バブル崩壊後から現在に至る20余年は、社会が次から次へと直面してきた経済問題や、少子高齢化、グローバル化の影響、大規模自然災害の多発等の中で、教会も諸課題への対応に追われ、内向き傾向とされています。「派遣された宣教師が高齢となって第一線を退きつつある一方、若者の海外への興味が減退、新たな宣教師志願者は少なく、働きを継ぐ人がいないために、海外の働きを閉じざるを得ない所もある。」「多くの教会は目の前のことで手一杯で、世界宣教がほとんど話題にならない。」など、4月のJOMAの総会でも6月のJEAの総会中の分科会でも、世界宣教に使命と重荷を持つ方々は、皆同様の危惧と危機感を口にされました。

この現実を前に、日本の教会がグローバルな宣教に貢献し続けて行くためにはどうしたらよいか、色々な方々と話さずにはいられない。1つは、自国も含めた全世界への宣教は、一部の「召命を受けた」個人の使命ではなく、主ご自身が推進しておられ、主の民・教会に与えられた使命であることの、聖書からの再確認（みことばからの動機付け）。もう1つは、その使命を果たすために教会に必要不可欠な、世界大の視野と時流感覚を持った祈りの奨励（日常的な世界宣教の祈り）、そして国内外諸団体の広く柔軟な实际的協力関係作り（相互の学び合いと協力して働く恵みの共有）。

発言が苦手な若者エレミヤや農業牧畜が専門のアモスを、主は預言者として立たせ、幻を与えて「何が見えるか」、「何を見ているのか」と問われました。日本の世界宣教関係者は、何を見ているのでしょうか。ご自身のことばを実現しようと見張っておられる方が、JOMAの幻を明確にし下さり、JOMAを通して実現して下さいように。

# J+Passion Tokyo 2013

J+Passion Tokyo は、毎年GW中に行われる青年のための超教派の1日聖会で、今年も連休最後の5月6日(月)に、東京ライトハウスチャーチを会場として行われました。(https://ja-jp.facebook.com/pages/JPassion-Tokyo-2013/496145153761124) 例年この集会の実行委員会からJOMAへ、世界宣教の分科会の依頼をいただくので、若い世代にグローバルな宣教の話をする貴重な機会と捕らえて協力し、また2010年より、この分科会の参加者に極簡単なアンケートをとっています。

過去のアンケートから見えるのは、青年対象と言っても、参加者の年齢層は中学生からその親世代の社会人・教役者(引率して来た?)まで幅広く、世界宣教への意識やこの分科会への期待も様々ということです。中には本当に興味を持ってこのテーマを選んだ人もいますが、毎年少なくとも参加者の半分くらいは、他にいくつも面白そうな分科会が提供されている中、希望する分科会が満員で、「世界宣教」しか空いていなかったのでは仕方なく来たと思われる。実際この分科会は毎回希望者が少なく、直前まで空きがあるのです。



今年は、OMFの菅家総主事による聖書からの短い奨励、日本ウイクリフの井原姉の証しと兼次主事による短期プログラム紹介、その間に小グループによるわかち合いの時間をはさみ、最後に各グループでJOMA宣教地図を見ながら、日本からの派遣宣教師のために祈るといった内容で行いました。

参加者は15人(男7、女8)+JOMA側6人(OMF、日本ウイクリフ、JOMA代表)で、最年少は13歳の中学生、最年長は52歳の会社員。人数は2010年の25

## 「世界宣教」 分科会レポート

松崎ひかり



人には遠く及ばないものの、その後の2回よりは僅かばかり増え、10代8人、20代5人と、平均年齢が若くなったことと、大半が学生(11人)だったことが特徴的でした。(実行委員会の努力で中高生が参加しやすくなったようです。)また、分科会の感想の中に、単に「良かった」や「色々学べた」だけでなく、実際に世界宣教に行ってみたいという思いの表明が4人、自分が出ることや宣教師のために祈ってゆきたいという人が3人あり、具体的な行動につながる可能性を感じます。「あなたにとって世界宣教って何ですか?」という質問にも、1、2人は「まだあまり分からない」、「特別に召された人の働きのイメージ」と、距離感を滲ませつつも、「神さまからの命令」、「主からの使命」、「自分が持っている光を届ける」、「遣わされている所でイエス様を伝える」といった自分にも関係があるという意識や、「社会奉仕とセット」、「再臨の準備」という理解、「世界にも自分の国にも伝道したい」という思いを持っている参加者もいることが分かりました。

主がこの日本でも、新たな世代の有志(勇士)たちを育てて下さっているのでしょう。年一回の一イベントですが今後も協力し、さらに世界宣教の理解者、支援者、実践者の裾野を広げるために、他団体とも協力しつつ、希望する教会にはJOMAとして何らかのインプットを提供できるようでありたいと思います。



## メンバーケア・ジャパン報告

日本ウイクリフ聖書翻訳協会

メンバーケア担当主事 土井圭子

5月27日（月）に9回目のメンバーケア・ミーティングを開きました。今回は、宣教団体や教団の宣教部など7団体から男性5名、女性5名の計10名が出席しました。感謝な事に、新しい方が4名加えられました！

今回のテーマは子女教育でした。宣教師の子供である Missionary Kids（以下 MK）や帰国子女などのサードカルチャーキッズ（Third Culture Kids、以下 TCK）が持つ課題をさまざまな方面から学び、話し合いました。両親の出身国の文化を第一文化、現地文化を第二文化、この2つの文化のはざまの文化を第三文化とすると、TCKとは、このはざまの第三文化で育った子どもたちのことです。彼らは、発達段階のかなりの年数を両親の属する文化圏の外で過ごし、共有する1つの生活様式を持ち、特定の文化に属することなく、独自の生活文化を創造しています。（参照：サードカルチャーキッズ 多文化の中で生きる子どもたち）

次回の集会は11月18日（月）に予定されています。MKの書いた証やMKの親の証を通し、MK/TCKについて学びます。興味のある方はご連絡ください。（連絡先： 土井圭子 keiko\_doi@wycliffe.org ）





# フィリピン 地域貢献を通じた働き

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
フィリピン派遣宣教師 関本英樹

2012年3月に神学校を卒業した後、宣教師訓練生として私達夫婦はフィリピンに遣わされました。フィリピンで子供伝道や山岳地域の教会での奉仕といった訓練活動をしつつ、日々神様に祈り求めていく中で少しずつ宣教のビジョンが与えられていきました。

このカトリック・プロテスタントを併せて90%がクリスチャンと言われる国で、キリスト教国だからこそ出来る働きがあるはずだと祈っていく中で示されたのが、フィリピン南部の島々に住む少数民族の伝道でした。

フィリピンは約7,100の島があり、100以上の部族が暮らす多民族国家です。その中でも南部の島々に住む少数民族の多くが他宗教を信仰している人々です。また、それらの少数民族は部族単位で住んでおり、皆が同じ宗教を持ち結束が強いため、彼らの居住地の中に入って伝道することは困難を極め、フィリピンの他の地域と異なり、自らが宣教師と名乗り直接伝道をする事は不可能です。

しかし地域貢献という形で良い関係を築いていく上で地域の人々に受け入れられ、個人的に心が開かれた人に対して福音を伝えていく草の根伝道的な働きは十分可能なのです。その点は日本が得意としている分野でもあり、日本における伝道が困難な土着の宗教の強い地域での伝道と通じるものがあると思います。



私達が今後宣教活動していく上で考えている事は地域貢献を通しての働きです。その方法としては第一に教育を通しての地域貢献です。フィリピンは若年層の人口比率が非常に高く子供が多く見られます。しかし南部の少数民族は貧困家庭が多く、マーケットでは学校にも行けず少量のお金を得て家計を支えようと、ビニール袋を売り歩いたり、荷物持ちをする子供も多く見られます。そういった子供達に英語教育や識字教育を行う事は地域の人々には喜ばれます。また、そういった仕事がなく貧困にあえぐ家庭に、自ら生活の糧を得る手段を教える事も、地域貢献の二つ目の方法として考えております。その方法の一つは日本人が使う折紙です。折紙を使ってカードや鍋敷きや箱を作り、それら売ることで多少なりとも生活の糧を得る事が出来ます。折紙だけでなく、現地で入手できる広告や新聞なども使うことができます。それ以外にも彼らの必要に応じて生活支援をすることで少数民族の人々と良い関係を築きあげていく事が出来るのです。

またフィリピン人は人口の10%近くが海外に出稼ぎに行きます。その中にはハウスメイドや技術者として中東などまだ福音が伝わっていない地域も含まれます。宣教の働きを通して救いを受けたものが、弟子訓練を通して主の証し人として用いられ、多くの国に種まき出来る可能性を持った国がフィリピンです。来年1月から始まる第一期のフィリピン宣教のためにお祈り頂ければ幸いです。

# 台湾・台中における日本語教会の働き

インマヌエル教団 台湾派遣宣教師 平瀬 義樹

「私は…返さなければならない負債を負っています。」(ローマ1章14-17)

311 東日本大震災。ここ台湾でも大々的にその映像が流れ、その衝撃的な映像と惨事に、全国民が涙しました。翌朝、志のある人々が交差点や街頭に立ち並び、日本の為に、震災復興の為に、自主的に義捐金を募る姿が見られました。台湾、この地は、これまでの複雑な歴史背景を持ちつつも、世界に類を見ない親日国家です。

この事実は、近年、日本国内においても、この数年の極東アジア情勢の緊迫化により、その親日が際立つ形で理解され、認識されつつあります。

私共の現在の働きは、台中に唯一の、日本語を用いた教会建設です。日本人が日本語で、台湾で現地の人々に伝道・宣教するというユニークな働きです。どうしてこのような働きをしているのでしょうか？台湾の人々を大きく次の三つの世代に分けることができます。①八五歳前後、それ以上の日本語世代の高齢者。流暢な日本語を駆使する人々です。その中には、テレビは、NHK国際放送しか見ない。読書はもっぱら日本語のみという人々も相当数あり、彼らの精神・思考構造は日本語です。②次に、そのような両親の親日思想、影響を色濃く受けた壮年・中年世代。日本語は話せませんが、両親の日本語会話を聞いて育ち、何となく理解できる人が少なくありません。③第三に、中国語を母語とする若者世代。日本の流行や文化に非常に敏感で、日本語を



学ぼうという意欲に満ちています。台湾社会は、各世代においておおむね親日、日本に対して非常に友好的です。数十年前の日本語熱(哈日族)が熱(流行)として終わらず、衣食や文化、社会、学校組織の中にしっかりと定着しました。この事が、日本人が台湾において、日本語で宣教や伝道・宣教する際に、大きな武器となり、とても有効に働くのです。特に、日本語での伝道・宣教に大きな関心と反応を示すのは、日本語世代の高齢者と若者世代です。私共の教会にも、友人や知人の紹介によって、この二世帯が頻繁に教会に來会します。

赴任まもなく、ある台湾人牧師からこのように励まされました。「日本人が日本語で、台湾で伝道・宣教する意義、それは予想以上に大きい。現地の台

湾教会が届ききれていない二つの世代の心に響くから。これは不思議なことですが、厳然とした事実です。」この言葉を聞いた時、冒頭の聖句が浮かびました。日本はかつて圧倒的な武力をもってこの国を統治しましたが、今度は福音をもって、神様の愛をもって満たすことができる」これは、私たち日本人キリスト者に神様が与えられたすばらしい福音の負債なのではないでしょうか。



## 予定イベント

### \*日本ウイクリフ聖書翻訳協会

#### ① 45周年感謝集会

日時：2013年10月21日（月）  
 （第1部14：00～16：00、  
 第2部19：00～21：00）  
 場所：新小岩バプテスト教会（東京都葛飾区新小岩）

#### ②ウイクリフ・カフェ（関西）

日時：2013年11月2日（土）13:30～16:00  
 場所：北浜スクエア（大阪府中央区北浜）

#### ③ウイクリフ・カフェ（関東）

日時：2014年1月11日（土）13:30～16:00  
 場所：日本ウイクリフ事務所（埼玉県朝霞市朝霞台）

#### ④ネパール訪問旅行

日時：2014年2月27日（木）晩  
 ～3月8日（土）早朝  
 場所：ネパール首都カトマンズ近郊

#### ⑤フィリピン宣教地体験旅行

日時：2014年3月13日（木）早朝～27日（木）晩  
 場所：フィリピン首都マニラ、山岳州東ボントク地域

### \*日本ローザンヌ委員会シンポジウム Vol. 2

「分断され、損なわれた世界にあって、キリストの  
 平和を築き上げる」  
 ー傷ついた被造物にどう取り組むか  
 日時：11月9日（土）13:30～16:30（受付13時から）  
 場所：中央大学駿河台記念館670号室  
 詳細・申し込みは、  
<http://www.lausanne-japan.org/> から

### \*宣教フォーラム・福島

～フクシマと生きる宣教～  
 日時：11月18日（月）～19日（火）  
 [オプション]20日（水）被災者訪問と交わり  
 場所：ビッグパレットふくしま（福島県郡山市）  
 主催：福島県キリスト教連絡会（FCC）/日本福音  
 同盟宣教委員会（JEA）の共同開催  
 （お問い合わせ：JEA 総務局 Tel 03-3295-1765  
 E-mail adminoffice@jeanet.org）

### \*第3回アジア宣教フォーラム

「堅く立って、十字架を見上げる」  
 （Iコリント 15:58）  
 日時：2014年2月10日（月）15:00  
 ～12日（水）12:00  
 場所：シンガポール Trinity Theological College  
 主催：アジア宣教フォーラム実行委員会  
 協賛：シンガポール JCF

### JOMA 加盟団体リスト

OMF インターナショナル日本委員会  
 OM日本  
 アンテオケ宣教会  
 イムマヌエル総合伝道団 国外宣教局  
 チャーチ・オブ・ゴッド 国外宣教部  
 基督兄弟団 海外宣教委員会  
 在欧日本人宣教会  
 東京フリー・メソジスト教団 宣教委員会  
 東洋ローア・キリスト伝道教会  
 海外宣教委員会  
 南米宣教会  
 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団  
 海外伝道部  
 日本イエス・キリスト教団 宣教局 海外宣教  
 日本ウイクリフ聖書翻訳協会  
 日本バプテスト教会連合  
 日本ホーリネス教団 宣教局

**JOMA 加盟団体  
 募集中!**

協力会員・団体会員を募集します。  
 会費年額 団体会員 60,000 円  
 協力会員 12,000 円

詳しいお手続きについてはお問い合わせ下さい。

### ● JOMA 海外宣教連絡協力会 ●

住 所：〒101-0062 東京都千代田区  
 神田駿河台 2-1 OCC ビル内 6F  
 発行者：松崎ひかり  
 メール：jomaofficekanda@gmail.com  
 （電話はありません）  
 ホームページ：http://joma.hope8.net/  
 郵便振替 口座名義：海外宣教連絡協力会  
 口座番号：00160-7-106631